

平成27年度 岐阜県口蹄疫防疫演習

平成27年度岐阜県口蹄疫防疫演習（主催：岐阜県、共催：一般社団法人岐阜県畜産協会、西濃地域及び揖斐郡口蹄疫対策本部）を、平成28年1月13日（水）、大垣市の西美濃農業協同組合本店で開催しました。地元市町村や関係団体に加えて県内、近隣県から総勢137名の参加がありました。

午前は、宮崎大学産業動物防疫リサーチセンターの末吉益雄副センター長兼防疫戦略部門長をお招きして平成22年の宮崎県における口蹄疫発生事例の教訓から学ぶ防疫戦略についてご講演をいただきました。午後は関係職員により、口蹄疫発生時の初動防疫措置について机上演習を行った後、作業従事者の防疫服の着脱及び発生農場入出場、殺処分家畜の取扱い及び運搬の流れ、その他運搬車両の消毒について実動演習を行いました。

本病は平成22年以降、国内の発生は無いものの、近隣諸国においては断続的に発生しており、本年1月には韓国における発生が確認されたところです。今後の発生がないことを願いながらも、いざという時に備え緊張感を高め、認識を新たにして円滑な対応を実現するために演習を進めました。

講演

「口蹄疫の教訓から学ぶ防疫戦略」として、宮崎大学産業動物防疫リサーチセンターの末吉益雄副センター長兼防疫戦略部門長から、平成22年の宮崎県発生事例の際の様々な記録とそこから得られた教訓、今後このような経験を繰り返さないために取り組むべき「守りの防疫」＋「攻めの防疫」について詳細かつ分かりやすいご講演をいただきました。口蹄疫は畜産にとって脅威であるとともに、畜産農家をはじめ関係者にも非常に大きな負担を強いるものであることが分かり、万一発生した際、被害を最小限に食い止める初動防疫対応の重要性を再認識することができました。

机上演習

口蹄疫発生時の初動防疫措置及び実動演習の概要について、中央家畜保健衛生所職員から説明をしました。

実動演習

発生農場において防疫作業を行う際、農場外へ口蹄疫ウイルスを持ち出さないようにするために、作業従事者は防疫服を着用します。防疫服は正しく着脱することが重要であるため、演習を行いました。



次に発生農場と想定した場所へ移動し、牛の模型を用いて殺処分の流れについて実演を行いました。作業者の安全を十分に確保して作業を行うため、家畜を保定したうえで、薬液注入により殺処分を実施します。



殺処分家畜の運搬として、今回の演習では防疫バックを用いた家畜の運搬について演習を行いました。防疫バックはウイルスを拡散させることなく殺処分家畜を運搬するのに有効です。防疫バックを広げて準備をした後、殺処分家畜と見立てた模型をクレーンにより吊り上げ、保護カバーを施したのち、バッグ内に投入します。

投入後は内袋を密封したのち、手順に従いバッグを閉じ、外側を消毒します。

バッグの下側についても十分に消毒をする必要があるため、消毒はクレーンにより吊り上げた状態で行います。



消毒をした後、バッグをトラックに積載し、ブルーシートで梱包して運搬します。



運搬車両が農場を出る際の消毒について実演を行いました。運搬後、殺処分家畜を埋却あるいは焼却等により処分します。



農場での作業を終えた従事者は、ウイルスの農場外への持ち出しを防止するため、全身を十分に消毒してから防護服を脱ぎ、集合施設へ戻ります。

今後の対応

口蹄疫は、近隣諸国において断続的に発生しており、本年1月には韓国における発生が確認されたところです。発生地域から国内への侵入を防ぐべく関係者が一丸となって取り組んでいるところですが、万が一発生してしまった際には被害を最小限に留めるため、万全の態勢で本病の防疫対応に臨まなければなりません。